



Title	<書評>「子どもの対象喪失：その悲しみの世界」 (森省二著，創元社，1400円)
Author(s)	西澤， 哲
Citation	大阪公衆衛生. 1991, 60, p. 18-18
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83615
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『子どもの対象喪失』

— その悲しみの世界 —

森 省二 著（創元社 1400円）

人間の成長とは、さまざまな《喪失》の軌跡であるといえる。子供は成長にともなう母、父、兄弟、友人などさまざまな《他者》と出会い、それを喪失する。こうした人生に不可避の《喪失体験》を、子どもがどのように乗り越えていくのか、うまく対処できない場合にどんな問題が生ずるのかを、精神科医である著者が臨床体験を通して書いたのが本書である。

登校拒否、いじめ、緘黙症など、臨床現場で出会うさまざまな問題の背後に、著者は子どもたちの喪失体験をみる。

《喪失》とは、客観的な分離のことではなく、対象喪失という本人の主観的な体験である。この体験をうまくクリアできるかどうかは、本人の内界にしっかりと「良い対象表象」が確立しているか否かによる。

このあたりの説明がわかりやすい文章で書かれていて、自我心理学や対象関係論などの少々やっかいな理論の香りを楽しむには、うってつけの1冊である。

著者はすでに『アンデルセン童話の深層』や『名作童話の深層』において、児童文学を深層心理学の観点から分析しているが、その見識の高さは本書でも随所にみられる。児童文学における対象喪失の分析が、症例分析とあいまって、本書を興味深いものにしているのである。

（大阪府健康増進課精神保健室 西澤 哲）